

京都 職人仕事 第37回 百科

蠟色師

談・立石彰(67歳)

究極の道具は、自分の手

漆器はピカピカと光って表面が鏡のようですが、そのピカピカに磨くのが私ら蠟色師の仕事です。漆工芸も昔から分業で、蠟色師は塗り漆最終の表面仕上げをします。



が仕事ですが、蠟色師の仕事の神髄は、漆の磨き時の見極め。漆はほんま天真爛漫な性格で、笑。なかなか乾かず磨き時が来ないのは漆が機嫌を損ねているから、逆に漆が頑張り過ぎると早く乾き過ぎる。湿度をもたせた室に入れた漆のベスト

磨き時を知るには、きょう、今晩、明日の温度、湿度、天候変化から予測するしかありません。漆に振り回されるうちは半人前それが長年のうちに気候に寄り添った漆の行動を読み取れるようになってくる。毎日毎日の体感の積み重ねです。盆や正月に休んだだけでも動が鈍るのがわかります。

漆を塗るのは塗師屋さんの仕事です。下地、中塗り、上塗り重ねても、漆の輝きはまだまだありません。それが蠟色師に届いて、炭研ぎ・摺り漆・磨きの三段階で表面を整える。特に最後の磨きでは、道具は何も使わない、自分の手だけで磨きます。平らな面は手のひらで、入り組んだ細部は指先で。手に角粉もとは鹿の角を蒸し焼きにした粉末。現在は代用品をつけて、少量の植物油ですべりをよくして。

「長年やっていると指紋がなくなりませんか」と必ず聞かれます。が不思議に指紋は消えませんが、それどころか、指紋があるから磨きにいいともいわれませんが、いつの時代からこうして磨きだしたのかはわかっていないそうです。

ただ代わりのない自分の手ですからね、慣れないうちはタコができるし、摩擦熱で火傷はしょっちゅう。それでも、手より磨いているもののほうが大事です。から、まあ五、六年たてば、蠟色師の手になります。

漆と対話する



たてし・あきら 昭和17年京都市生まれ。15歳で立石漆工所初代である父に師事。京都市立堀川高校卒業。漆塗りの蠟色一筋50年以上。京仏壇伝統工芸士。京仏壇・京仏具優秀技術者会副会長。

「蠟色師は漆の機嫌をとるのが仕事」と親父が言うてました。手で磨くの

なぜ蠟色師に？ 親の仕事を継ぐもんと当然のように。ですから、よその人について習ったことはない。 一日の仕事は？ 朝7時半から18時半位までと長い。朝・昼・夜それぞれにやるべき仕事のパターンがあるため、活況時代は夜も遅くまで仕事をした。 後継者は？ 長男(39歳)と次男(35歳)が継承。とにかく地味な仕事、家族以外の若い人は続かないようです。

聖護院だいこん

【材料 4人分】

- 聖護院だいこん...1/4個(300g)
金時にんじん...1/2本
みず菜...適量
小麦粉...約大さじ1
豚ロース肉(薄切り)...80g
えび...4尾
A 合わせみそ...大さじ4
砂糖...大さじ4
日本酒...大さじ2



ごちそう蒸し

- 1 切る だいこんは皮をむき、厚さ5mmくらいの半月切りに。にんじんは皮をむいてスティック状に、みず菜はみじん切りにする。
2 並べる 皿にだいこんを並べて、豚肉、えび、にんじんをのせる。小麦粉をうすくふりかけ、Aを全体に散らしかける。
3 蒸す 2にラップをかけ、皿ごと火が通るまで約20分蒸す。みず菜を散らして完成。

一口メモ
A みそだれの作り方
合わせみそと砂糖を酒で溶く。ダマにならないようにトロリとするまでしっかり混ぜる。



クイズ de プレゼント

2月 日 京都地球環境の日

はがきに、「に入る数字と郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、興味を持たれた記事やご意見・ご感想を記入し、〒602-8570 府広報課、クイズ係へ。締め切り2月10日消印有効。正解者の中から抽選、ホームページ応募フォーム(メール・広報課)でも応募可。個人情報、賞品の発送のみを使用します。(ご意見などは、府民総合案内・相談センターで対応する場合があります。)



(1) Green宇治茶(煎茶・ほうじ茶)と抹茶飴 2,150円(送料別)

エコなお茶をプレゼント。栽培時や製茶過程に京都市内の太陽光発電所で作られた「京グリーン電力」を活用しています。南山城村産茶葉100%使用の煎茶、ほうじ茶と抹茶飴をセットで。問 NPO法人南山城村茶ECO(ちやえこ)プロジェクト(木野製茶園内) 0743-933-0172

(2) 特製図書カード 20人